

平成30年度学校評価について

学校番号	6	学校名	滋賀県立大津高等学校
校長名	森 美 穂		

1 評価方法について

領 域	評 価 方 法 ・ (実施月)	
	自 己 評 価	学 校 関 係 者 評 価
1 学校経営	○12月に実施した保護者向けアンケートと生徒向けアンケートの結果を教員に示し、自己評価を行った。	○2月に実施した学校評議員の会議で、自己評価の結果を学校評議員に示し、保護者向けアンケート結果、生徒向けアンケート結果を参考に、協議を行い、評価を決定した。
2 学習指導		
3 生徒指導		
4 進路指導		
5 特別活動等		
6 学校図書館		
7 保健・安全指導		
8 人権教育		
9 環境教育		
10 事務・管理		
11 その他学校の取組み		

2 学校評価の活用等について（課題の改善に向けた具体的な取組み等）

1 学校経営

P T Aと連携して学校開放やP T S懇談会を実施したり、学年通信やホームページ等を通じてさまざまな情報を積極的に伝えたりすることで、本校の教育活動について生徒・保護者の理解を概ね得られていると考えている。しかしながら、アンケートの中には、学校の教育活動について「分からない」と回答されているものもあり、学校に対する保護者のさまざまな要望が散見される。そのため、会議やホームページ等さまざまな機会を通じて生徒・保護者により一層情報発信を行うとともに、生徒や保護者、学校評議員等からの意見も踏まえて本校の教育活動の改善を図っていく。

2 学習指導

昨年度から「学びの変革」推進プロジェクトのモデル校に指定され、大学教授等を招いた校内研修会や公開授業を実施したり、多くの教員が校外の研修会・研究授業に参加したりして、主体的、対話的で深い学びにつながるような授業改善の取組を進めている。生徒のアンケート等の結果を見ると、授業に対する興味や理解が深まっているという回答が昨年度よりもやや多くなっているが、まだまだ不十分であり、特に家庭での学習習慣の確立が十分でないと思われる。そのため、今後も授業改善や家庭学習を定着させる取組（I C Tの活用、学習時間調査、週末課題等）をより一層推進して学力の向上を図っていく。

3 生徒指導

多くの生徒は基本的な生活習慣が身につけており、集団生活のルールを守って生活できている。ただ、自己管理が十分にできないところもあるため、今後も遅刻指導や頭髪指導を継続していく。学園祭等の行事に対して生徒会執行部を中心に生徒による主体的な活動が行われているが、一方で「L H Rや諸行事に自ら積極的に参加している」と回答している生徒が5割程度であるため、生徒がさらに積極的に取り組んだと感じられるように、教員の指導・支援を強化していく。いじめに係るアンケートを活用するなどしていじめの早期発見・早期対応に努め、いじめ対策委員会を随時開いて組織で対応しているが、スマートフォン等の不適切な使用も散見されることから、今後も生徒課や生徒会が中心となっていじめの未然防止等の取組（挨拶運動や啓発活動、アンケート等）を一層進めていく。

#### 4 進路指導

生徒対象の校外学習や進路説明会、保護者対象の進路説明会などを実施して情報提供に努め、1年生全員を対象に英語検定（GTEC）を受検させるなど大学入試改革に対応する体制をとっている。そのような取組もあり、本校の進路指導に対する生徒や保護者の評価もやや上がっている。一方で、進路に関する情報・資料が十分に提供されていないという声もあるため、あらゆる機会を通じて進路に関する情報提供に一層努めていく。また、生徒の進路希望の実現に向けて関係分掌（教務課・進路課）が中心となって組織的・継続的な学習指導・進路指導体制のさらなる充実を図る。

#### 5 特別活動等

概ねHR活動や部活動にしっかり取り組んでおり、生徒・保護者ともに評価が高いが、積極性ややりがいの面で十分ではないと感じている生徒も多い。そのため、今後も分掌と学年、部活動の顧問が連携して、さらに生徒が主体的・意欲的に取り組める特別活動や総合的な学習（探究）を継続・改善していく。また、部活動についても、教員や生徒の負担も考慮しながら、生徒がより目標をもって主体的・意欲的に取り組めるような指導・支援の在り方を模索していく。

#### 6 学校図書館

子どもたちの読書離れが見られる中で、図書委員による読書週間の呼びかけや朝読書の取組、図書館を活用した探究的な授業の展開など読書習慣の確立に向けた活動を積極的に進めた結果、昨年度よりも図書館を利用した生徒の数や読書の大切さを感じている生徒の割合が増加している。しかし、1か月に1冊も本を読んでいない生徒も多く、今後も読書習慣のさらなる定着に向けて、朝読書等の取組を継続・充実していく。

#### 7 保健指導

保健室が中心となって、けがや病気、悩みを抱えた生徒への対応を適切に行っており、定期的にカウンセリング委員会を開くなどして関係教員間の連携を図っている。また、スクールカウンセラーや外部の専門機関との連携も深まっており、特別支援教育の体制も徐々に整ってきている。ただ、アンケートで「悩みや相談事があれば気軽に相談できる先生がいない」と答えている生徒も多いことから、さらに生徒との関係を深め、相談しやすい雰囲気づくりを進めていく。

#### 8 人権教育

本校の人権教育・道徳教育の取組については、生徒・保護者・教員ともに評価は高く、ほとんどの生徒が「約束や規則を守り他人に迷惑をかけないように心がけている」と回答しており、生徒の人権意識の向上に寄与していると考えられる。ただ、SNS等でのトラブルもあることから、さらに人権意識を高めるために、より効果的な指導のあり方を模索し、改善を図りながら取組を継続していく。

#### 9 環境教育

環境問題に特化した学校行事が少ないと感じている教員も多いため、評価は「C」と低くなっている。しかし、日常の清掃指導等をとおして環境教育を進めており、多くの生徒・保護者はごみの分別や清掃活動にしっかりと取り組んで環境意識が高まっていると感じている。そのため、学校関係者評価では「B」という評価になっている。まだまだ不十分なところもあるため、今後も各教科の授業や特別活動において、さらに環境問題への意識が高まるような取組を進めていく。

#### 10 事務・管理

修繕が必要な箇所が多いこともあり、教員の評価は「C」となっているが、教員と事務職員が連携しながら修繕や更新を適宜行い、できる限り生徒に快適な学習環境を提供していくように努めている。そのため、関係者評価では学校の努力を評価して「B」となっている。今後も個人情報の管理や環境整備に力を入れていく。

#### 11 その他学校の取組

普通科と家庭科学科の生徒同士が切磋琢磨しつつ、お互いに良い影響をおよぼしながら学校生活を送ることができている。生徒の自己評価が低いのは、普段普通科、家庭科学科を意識することなく交流しており、質問の意図も分かりにくいようなので、次年度は質問の文言を検討していく。